

2

本會前會長名譽會員從四位勳三等

工學博士 今泉嘉一郎君小傳

君は慶應三年六月二十七日群馬縣今泉家の嫡男として生れ、夙に學序を経て、明治二十五年東京帝國大學工科大学探鑛冶金科を卒業し、直ちに職を農商務省に奉じ、官立製鐵所創立の準備に従事す。同二十七年獨逸國に留學しフライベルグ及び伯林兩大學に學び同二十九年製鐵所技師に任ぜられ同三十年歸朝して八幡製鐵所建設起工の任に膺り同三十四年製鋼部長同三十六年鋼材部長に任ぜられ次で工務部長を兼任し同三十九年勅任技師に陞敘せられ同四十三年退官す。爾後民間製鐵事業の開發に志し、明治四十五年社長白石元治郎氏と協力して日本鋼管會社を創立し取締役技師長として同社の技術を總攬指導し爾來三十年幾多の困難を突破して設備の擴張と經營の合理化に努め特に日本式鹽基性轉爐の操業を創始して本邦製鋼法に一新紀元を劃したる其功績洵に顯著なりとす。而も明治二十七年以來本邦製鐵事業近代的設備の創設に際し之が參考資料を求むる爲め歐米各國に出張すること前後七回に及ぶ。曩に明治三十七八年日露戰役の功に依り勳三等旭日中綬章を授けられ又ルクセンブルグ公國並に獨逸國より各々名譽勳章を贈與せられたる洵に所以ありと謂つべし。氏は亦曩に大正九年より四ヶ年に亙り群馬縣より推されて衆議員議員として活躍し其間埃國維納に開催せられたる第十九回萬國衆議員總會日本代表として參列せる外、帝國經濟會議、臨時財政經濟調査會、度量衡改正委員會、工業品規格統一調査會等の各委員を命ぜられ、特に本會に對しては大正四年以來創立者の一人として第二次會長として將亦前會長として常に本會の發展に盡力して今日に至れり。要するに君の業歴は頗る多岐に亙ると雖も終始一貫本邦製鐵事業の樹立發展に畢生の努力を傾注し、斯界に貢獻せられたる處實に至大なりとす。惟ふに近時本邦製鐵鋼業の著大なる躍進を遂げたりと雖も前途尙幾多の難關を豫想せられ特に現時非常時局に際し鐵鋼業者の責務重且大なるものあるに際し君の如き聲望識見を兼備せる重鎮を失ひたるは邦家の爲め洵に痛惜に堪えざる處なり。